

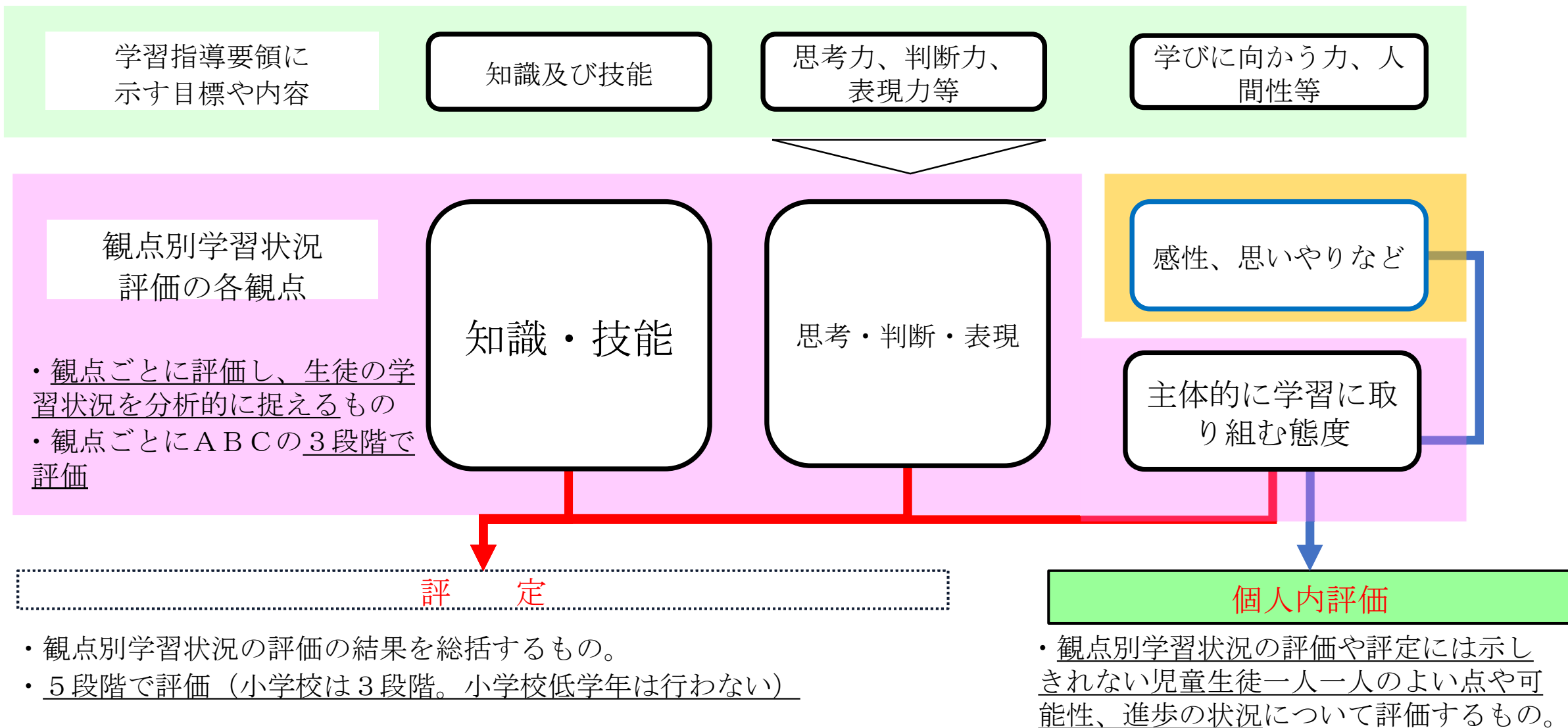
令和 7 年度中学校教育課程研究集会 【家庭】

技術・家庭(家庭分野)の評価について

～学習指導要領と「指導と評価の一体化」
のための学習評価に関する参考資料より～

各教科における評価の基本構造

- 各教科における評価は、**学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況**を評価するもの（**目標準拠評価**）。したがって、目標準拠評価は、**集団内での相対的な位置付け**を評価するいわゆる**相対評価**とは異なる。



題材について

■題材

- ・ 学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織して題材を構成し、家庭科の目標の実現を目指している。

■題材の設定

- ・ 各項目及び各項目に示す指導事項との関連を見極め、相互に有機的な関連を図り、系統的及び総合的に学習が展開されるよう配慮する必要がある。
- ・ 各項目に配当する授業時数と履修学年については、生徒や学校、地域の実態等に応じて、各学校において適切に定める。

■学習活動に即して具体化

- ・ 実際の指導に当たっては、履修学年を踏まえて、「題材の目標」及び「題材の評価規準」を作成した上で、学習指導要領解説の記述を参考にするなどして、「題材の評価規準」を学習活動に即して具体化することが必要。

内容のまとまりごとの評価規準

■「内容のまとまり」

- 内容のまとまりとは、学習指導要領に示す各教科の「第2 各学年の目標及び内容 2 内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりしたもの。
- 内容のまとまりごとの評価規準を作成する際の単位となるもの。

■「内容のまとまりごとの評価規準」

- 「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの。
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、時間をかけて育成されるものであるという趣旨等により「2 内容」に記載がない。
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、各学年の「1 目標」を参考にしつつ、必要に応じて観点の趣旨を用いながら「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する必要がある。

中学校家庭科の内容のまとめ

- 「A 家族・家庭生活」(1)自分の成長と家族・家庭生活
- 「A 家族・家庭生活」(2)幼児の生活と家族
- 「A 家族・家庭生活」(3)家族・家庭や地域との関わり
- 「A 家族・家庭生活」(4)家族・家庭生活についての課題と実践
- 「B 衣食住の生活」(1)食事の役割と中学生の栄養の特徴
- 「B 衣食住の生活」(2)中学生に必要な栄養を満たす食事
- 「B 衣食住の生活」(3)日常食の調理と地域の食文化
- 「B 衣食住の生活」(4)衣服の選択と手入れ
- 「B 衣食住の生活」(5)生活を豊かにするための布を用いた製作
- 「B 衣食住の生活」(6)住居の機能と安全な住まい方
- 「B 衣食住の生活」(7)衣食住の生活についての課題と実践
- 「C 消費生活・環境」(1)金銭の管理と購入
- 「C 消費生活・環境」(2)消費者の権利と責任
- 「C 消費生活・環境」(3)消費生活・環境についての課題と実践

「『内容のまとまりごとの評価規準（例）』を具体化した例を作成する際の『知識・技能』のポイント

- 「知識・技能」については、内容のまとまりごとの評価規準（例）の作成において述べたように、その文末を、「～について理解している」、「～について理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。
- 「A 家族・家庭生活」の(1)については、その文末を、「～に気付いている」として、評価規準を作成する。

「『内容のまとめりごとの評価規準（例）』を具体化した例を作成する際の『思考・判断・表現』のポイント

- 「思考・判断・表現」については、基本的には、内容のまとめりごとの評価規準（例）の作成において述べたように、教科の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、各題材において、次に示す四つの評価規準を設定し、評価することが考えられる。ただし、これらの評価規準は、各題材の構成に応じて適切に位置付けられることに留意する必要がある。
- 具体的には、以下のように評価規準を設定することができる。
 - ① 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだし、解決すべき課題を設定する力については、その文末を「～について問題を見い出して課題を設定している」
 - ② 解決の見通しをもって計画を立てる際、生活について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案する力については、その文末を「～について（実践に向けた計画を）考え、工夫している」
 - ③ 課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については、その文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」
 - ④ 計画や実践について評価・改善する際に、考察したことを理論的に表現する力については、その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している」

「『内容のまとまりごとの評価規準（例）』」を具体化した例」を作成する際の『主体的に学習に取り組む態度』のポイント

- 「主体的に学習に取り組む態度」については、「思考・判断・表現」と同様に、基本的には、内容のまとまりごとの評価規準（例）の作成において述べたように、各題材の学習過程において、三つの側面から評価規準を設定し、評価することが考えられる。ただし、これらの評価規準は、各題材の構成に応じて適切に位置付けられることに留意する必要がある。
- 具体的には、以下のように評価規準を設定することができる。
 - ① 粘り強さについては、その文末を「～について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている」
 - ② 自らの学習の調整については、その文末を「～について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている」
 - ③ 実践しようとする態度については、その文末を「～について工夫し創造し、実践しようとしている」

学習指導要領の着実な実施について

小・中・高の内容の系統性の明確化

小学校

家庭科

5年 60時間

6年 55時間

中学校

技術・家庭
(家庭分野)

87.5時間

高校

家庭科

2 または 4 単
位

自立

共生

B(3)日常食の調理と地域の食文化

ア(エ)地域の食文化について理解し地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること。(学習指導要領解説 P.89)

小学校

煮干しや昆布、かつお節など様々な材料からだしをとることについて触れ、みそ汁にだしを使うことで風味が増すことを理解できるようにする。

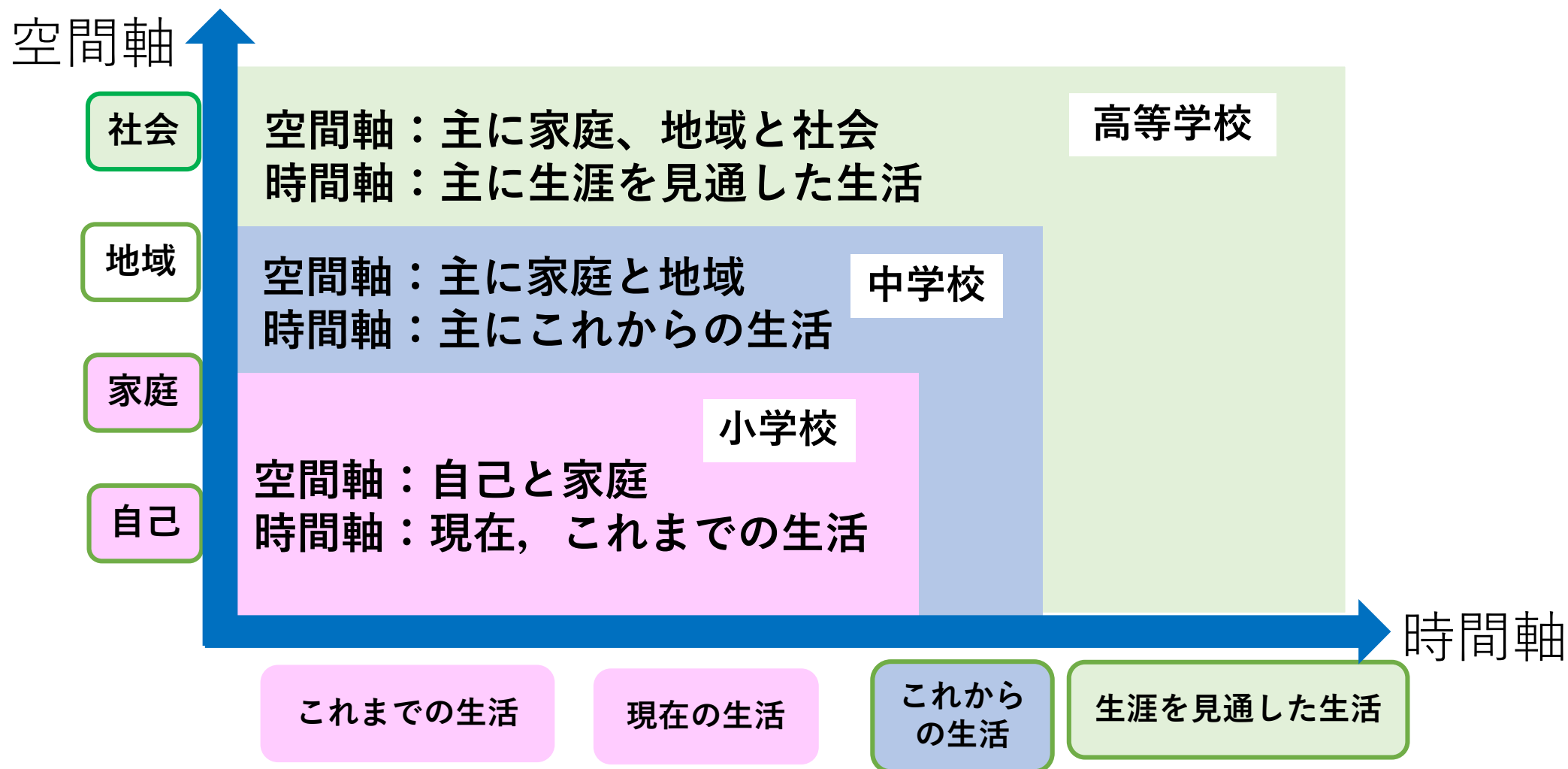
だしをとって作ったみそ汁とだしをとらずに作ったみそ汁を比較し、だしの役割について話し合う活動などが考えられる。

中学校

小学校で学習しただしの役割を踏まえ、だしの種類や料理に適しただしの取り方に気付くことができるようにする。

地域又は季節の食材について調べ、それを用いた和食の調理をすることが考えられる。

空間軸・時間軸の視点からの 学習対象の明確化



学習指導要領及び解説を確認する

《学校教育法施行規則 第七十四条》

中学校の教育課程については、この章に定めるもののほか、教育課程の基準として文部科学大臣が別に公示する中学校学習指導要領によるものとする。

※小学校は第五十二条

「資質・能力」→学習指導要領の着実な実施

知識及び技能

思考力、判断力、
表現力等

学びに向かう力、
人間性等

三つの柱、それぞれを個別に育成するのではなく、偏りなく実現されるようにする。

家庭科における問題解決的な学習の充実

～家庭科で目指す資質・能力の育成について～

家庭分野の目標（中学校）

柱書き

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

知識及び技能

（２）家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。

思考力、判断力、表現力等

（３）自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学びに向かう力、人間性等

育成を目指す資質・能力

各内容の各項目で育成する資質・能力の明確化

内容

A 家族・家庭生活

B 衣食住の生活

C 消費生活・環境

○アとイの二つの指導事項で構成

ア「知識及び技能」の習得

「なぜ、そのようにするのか」
根拠と共に理解し技能を身に付ける

イ「思考力、判断力、表現力等」の育成

問題解決的な学習

問題解決的な学習の一連の学習過程（例）

生活の 課題発見	解決方法の 検討と計画		課題解決に向 けた実践活動	実践活動の 評価・改善	
既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめ、生活の中から問題を見いだし、解決すべき課題を設定する	生活に関わる知識及び技能を習得し、解決方法を検討する	解決の見通しをもち、計画を立てる	生活に関わる知識及び技能を活用して、調理・製作等の実習や、調査、交流活動などを行う	実践した結果を評価する	結果を発表し、改善策を検討する
日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現する一連の学習過程					
➡ 課題を解決する力を養う					

家庭・地域での実践

中学校家庭科の内容のまとめ

「A 家族・家庭生活」	(1)自分の成長と家族・家庭生活	ア	
「A 家族・家庭生活」	(2)幼児の生活と家族	ア	イ
「A 家族・家庭生活」	(3)家族・家庭や地域との関わり	ア	イ
「A 家族・家庭生活」	(4)家族・家庭生活についての課題と実践	ア	
「B 衣食住の生活」	(1)食事の役割と中学生の栄養の特徴	ア	イ
「B 衣食住の生活」	(2)中学生に必要な栄養を満たす食事	ア	イ
「B 衣食住の生活」	(3)日常食の調理と地域の食文化	ア	イ
「B 衣食住の生活」	(4)衣服の選択と手入れ	ア	イ
「B 衣食住の生活」	(5)生活を豊かにするための布を用いた製作	ア	イ
「B 衣食住の生活」	(6)住居の機能と安全な住まい方	ア	イ
「B 衣食住の生活」	(7)衣食住の生活についての課題と実践	ア	
「C 消費生活・環境」	(1)金銭の管理と購入	ア	イ
「C 消費生活・環境」	(2)消費者の権利と責任	ア	イ
「C 消費生活・環境」	(3)消費生活・環境についての課題と実践	ア	

内容構成について

内容

B 衣食住の生活

次の（１）から（７）までの項目について、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

項目

（２）中学生に必要な栄養を満たす食事調理の基礎

指導事項

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

知識及び技能

（ア）栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特質について理解すること。

（イ）・・・

イ 中学生の１日分の献立を考え、工夫すること。

思考力、判断力、表現力等

題材を構想する際の留意点

- ・ 実践的・体験的な活動を通して学習



子供は楽しそうに活動する様子が見られるが・・・



- ・ 活動が楽しいだけでは、家庭科で目指す資質・能力の育成にはつながらない。
- ・ 家庭科の基盤は子供の「日常生活」



・・・どのような学習活動の展開が必要か。

問題解決的な学習とは？



子供が主体

子供にとっての現状

解決に向けたロードマップ
→ 題材展開

- ・なりたい自分に近づくための
1単位時間ごとの「ねらい」
- ・なりたい自分に近づいていること
を自覚するための振り返り
「主体的に学習に取り組む態度」

なりたい自分・願い
そのための見通しや期待

よりよい生活

問題を見いだして

ギャップを埋める
具体的な方策
→ 課題

課題を設定する

- ・解決方法の検討と計画
- ・課題解決に向けた実践活動
- ・実践活動の評価・改善

課題の解決

解決の必要感

常に、課題の解決
に向けた授業展開



生徒が問題を見いだしたり、
見いだした問題を課題設定に
つなげたりするためには、授
業者が、様々な手立てを意図
的に講じる必要があります。

家族へのインタビュー

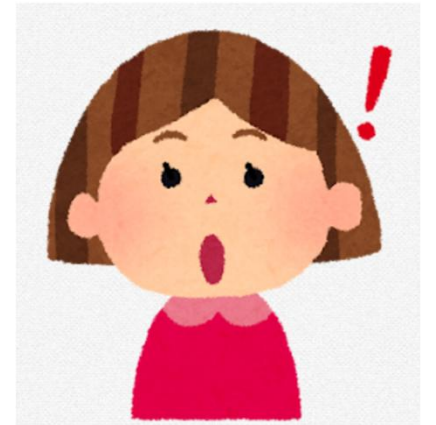
事前の生活チェック

家での観察

アンケートの実施

先生から資料の提示

生徒が問題を見いだし課題を設定する

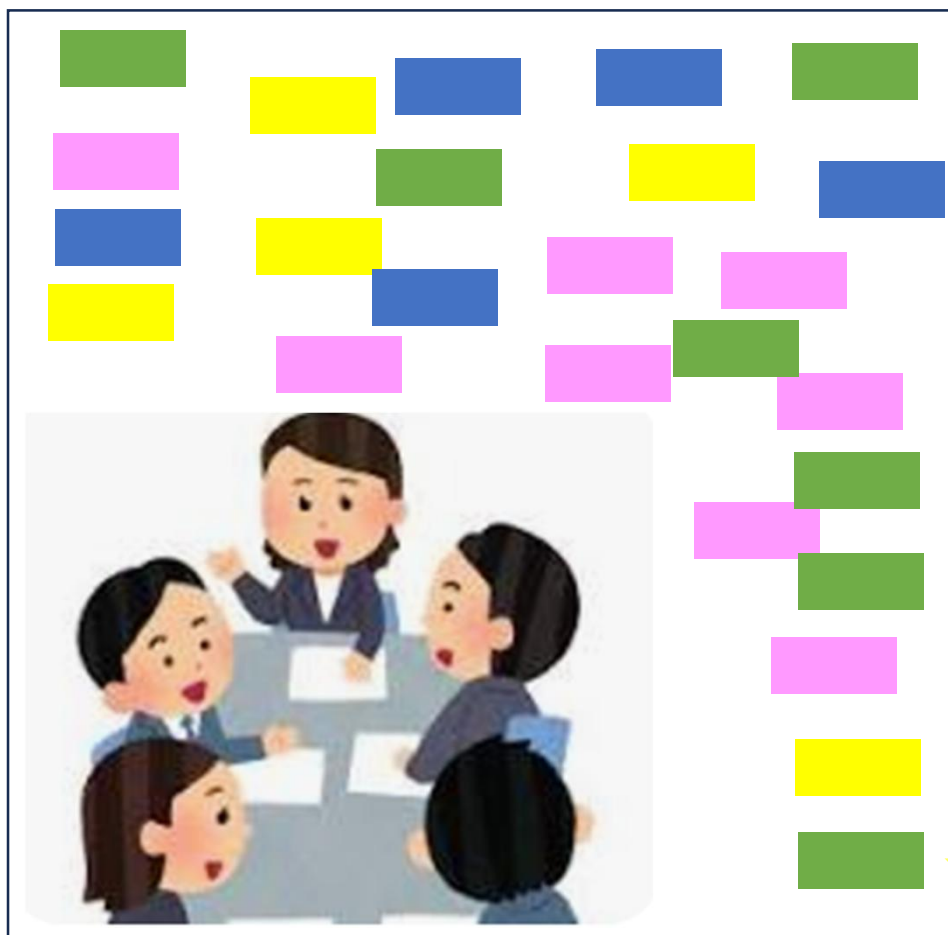


問題解決的な学習を充実させる

授業づくり（題材全体の構想）段階が最も大切

小学校内容B(5)ア(ア)(イ)イ生活を豊かにするための布を用いた製作

題材名「ミシンでソーイング」（第5学年）全12時間



題材の最後に目指す子供の姿や記述内容を思い描く

子供の実態を洗い出す

学習指導要領及び解説を確認する
→育成を目指す資質・能力は何？
→[教えること][考えること]の仕分け

資質・能力の育成のためにふさわしい製作題材を集めて、題材の流れを考える

全て「子供の姿」で考える

問題解決的な学習を充実させる

子供にとって解決の必要感がある課題の設定

◇ランチョンマットへの憧れ

「先生のランチョンマットいいな」

◇ミシンとの出会い

「ミシンってすごい」 「使ってみたい」

◇ミシンと手縫いの違いを知る

「きれい」 「速い」 「正確」

問題解決的な学習を充実させる

子供にとって解決の必要感がある課題の設定

◇ランチョンマットへの憧れ

「先生のランチョンマットいいな」

◇ミシンとの出会い「ミシンってすごい」「使ってみたい」

◇ミシンと手縫いの違いを知る「きれい」「速い」「正確」

◇ランチョンマットづくりへの願い

「きれいに作って、使っていて楽しいランチョンマットにしたい」・・・「まっすぐ」「丈夫に」「正確に」

課題

ミシンを使って、**きれいに**ランチョンマットを作ろう

子供の言葉を使ったものでよい

問題解決的な学習を充実させる

課題

ミシンを使って、**きれい**にランチョンマットを作ろう

返しぬい

縫い目が
重なっている

直線ぬい

線からずれて
いない

角のぬい方

ちょうど角の
所で 90°

子供も教師も、「きれい」の定義が一致している
家庭科で育成を目指す資質・能力と合致している

問題解決的な学習を充実させる

解決の必要感がある課題が設定されると、
子供の姿が変わる



〈協議題Ⅰ〉 提出課題

子供が必要感をもって取り組むための
「課題の設定」について

- ・「課題の設定」の場面での効果的な手立ての
具体例（実践例）について、提出課題を共有
しましょう。

司会進行者、記録者、発表者

（例）具体例、成果、課題・・・などをまとめる

問題解決的な学習とは？

子供にはこう学んでほしい

- ・ 常に課題の解決に向けて取り組む
- ・ 課題の解決に向けた計画を立てる
- ・ 課題の解決に向けた実践活動を行う
- ・ 課題の解決に向けた自分の取組について評価・改善を行う

令和 6 年度を振り返って

令和6年度を振り返って（成果）

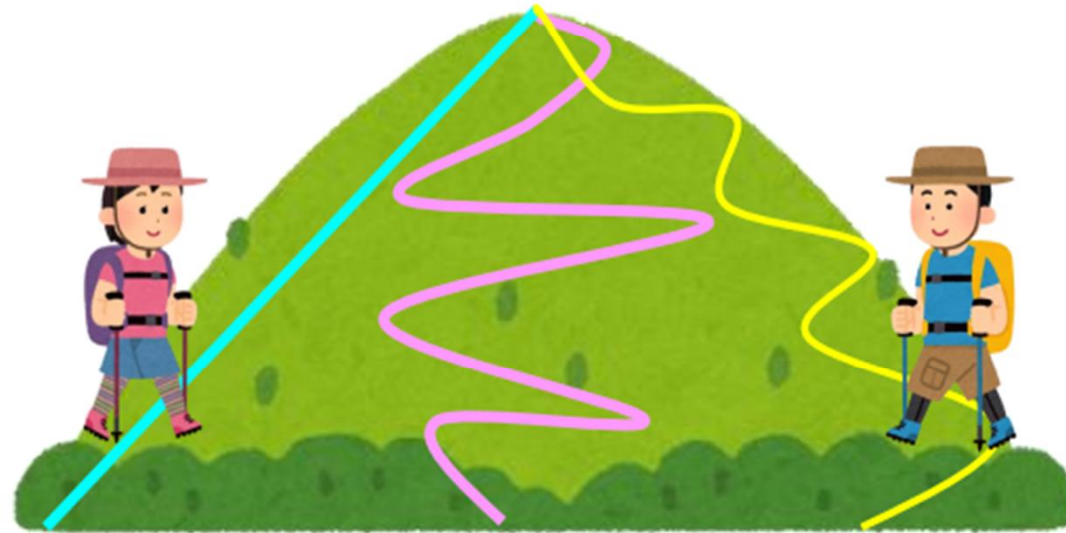


- ◆ 学習指導要領や解説の内容等を常に意識し、ねらい等を確認しながら授業づくりをする教師が増えてきた
- ◆ 問題解決的な学習において、児童生徒が主体となる課題が設定され、その解決に向けた授業が展開されるようになってきた
- ◆ デジタル学習基盤の活用が日常化し、効果的に活用される場面が増えてきた

令和6年度を振り返って（成果）



登頂＝資質・能力の育成



目指す山＝学習指導要領の目標や内容

- 児童生徒の実態に応じて登山ルートを決める
- 登山ルートは「題材や内容ごと」に考える
- 登山ルートを考えることは「授業改善」につながる

令和6年度を振り返って（成果）



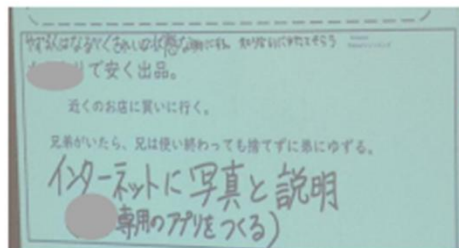
デジタル学習基盤の活用

導入当初

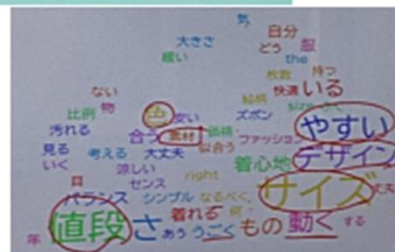
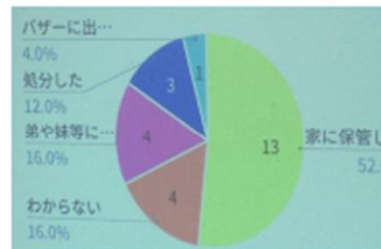
考えの共有、ワークシートの蓄積、動画視聴、作品の撮影、計画の改善ビフォーアフター（比較）、付箋機能の利用 等

最近の様子

共同編集による 対話的な学び



リアルタイムの 意見集約による分析



撮影機能を用いた 評価・改善



好事例は積極的に
参考にしていきたい

令和6年度を振り返って（課題）



◆問題解決的な学習について、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が不十分であると感じる

◎学習過程については一定の理解を得られていると感じる一方で・・・

- ・児童生徒が解決したいと願う課題が設定されていない
- ・児童生徒が課題の解決に向けた見通しをもてていないまま授業が進んでいく
- ・児童生徒にとって必要感のない評価・改善が行われている

など

令和6年度を振り返って



令和6年度の成果と課題を踏まえて、
今後の授業改善の在り方を考えていく必要がある



考える材料として
『令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査』の
結果を参考にしながら、今後の家庭科、家庭分野にお
ける「主体的・対話的で深い学び」の視点による今後
の授業改善の在り方を考えていきたい

令和 4 年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果 から考える今後の授業改善の在り方

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果

令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果について（家庭）

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るための内容を充実
- 知識及び技能を活用しながら、家族や家庭、衣食住、消費や環境など身近な生活の課題を解決するための内容を充実
- 生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 身近な生活の課題を解決するために必要な「思考力、判断力、表現力等」の育成については、具体的な生活場面をイメージして解答する出題に対して、日常生活を見つめ、物の使い方などの問題を見だし、解決すべき課題を設定することについては、相当数の児童ができている。
- 日常生活に必要な「知識及び技能」の習得については、材料に適したゆで方等に関する事実的な知識の習得に加え、学習内容の本質を深く理解するための概念としての習得にも課題があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・日常生活に必要な知識及び技能の確実な習得のために、実践的・体験的な活動を通して、生活事象の根拠などについて実感を伴った理解を深められるよう、指導の工夫を図る必要がある。
 - ・既習の知識及び技能や生活経験を基に具体的な生活場面をイメージする中で、解決すべき課題を設定できるよう指導を工夫し、引き続き問題解決的な学習の充実を図る必要がある。

4. 調査問題例（ペーパーテスト 小学校/家庭）

「身近な生活の課題を解決するために必要な『思考力、判断力、表現力等』の育成」の問題例（別紙1参照）

- 生活の中から見いだした問題に対して、解決すべき課題を設定する力が育成されているかを確認するための問題を出題。

環境に配慮した生活を営むために、物の使い方や捨て方などの問題（生活の中にある「もったいないこと」）に対して、ふさわしい課題を選択する。 【通過率 84.0%】

「日常生活に必要な『知識及び技能』の習得」の問題例（別紙2参照）

- 学習指導要領における指定題材である青菜とじゃがいもについて、適切にゆでる方法を理解しているかを確認するための問題を出題。

<ほうれんそうのゆで方>

- ①ふさわしいゆで方の選択/その理由の説明
【通過率 選択：70.2% 説明：28.3%】
- ②ゆでた後の冷まし方の選択/その理由の説明
【通過率 選択：54.0% 説明：12.0%】

<じゃがいものゆで方>

- ③ふさわしいゆで方の選択/その理由の説明
【通過率 選択：60.0% 説明：17.7%】
- ④ゆでた後の冷まし方の選択/その理由の説明
【通過率 選択：55.7% 説明：12.8%】

出典：「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（諮問）参考資料 p211～213

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果



2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 身近な生活の課題を解決するために必要な「思考力、判断力、表現力等」の育成については、具体的な生活場면을イメージして解答する出題に対して、日常生活を見つめ、物の使い方などの問題を見いだし、解決すべき課題を設定することについては、相当数の児童ができている。

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果



- (1) Jさんたちは、自分たちの生活の中にある「もったいないこと」をグループで出し合い、取り組む課題を決めました。グループの課題としてふさわしくないものはどれですか。次の1から4の中から1つ選び、その番号を□の中に書きましょう。

生活の中の「もったいないこと」(Jさんのグループ)

- ・ テレビや照明器具をつけたままねていることがある。
- ・ 入浴や食器洗いで、水をたくさん使っている。
- ・ 資源ごみを燃やすごみに入れて捨てていることがある。
- ・ 着られなくなった服を毎年捨てている。
- ・ 料理を作り過ぎて、食べ残すことがある。

具体的な生活場面をイメージして、物の使い方などの問題を見いだす

- 1 電気の使い方を見直し、電気エネルギーを大切にしよう
- 2 水の使い方を見直し、工夫できる方法を考えて、水を大切にしよう
- 3 ごみ置き場のそうじの仕方を工夫して、快適な生活をしよう
- 4 物を生かす工夫を考えて、ごみを減らそう

解決すべき課題を設定する



3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- ・日常生活に必要な知識及び技能の確実な習得のために、実践的・体験的な活動を通して、生活事象の根拠などについて実感を伴った理解を深められるよう、指導の工夫を図る必要がある。



児童は、具体的な生活場面をイメージすることができれば、日常生活の中から問題を見いだし、解決すべき課題を設定する力が身に付くのではないか？



日常生活の中から問題を見いだせるようにするための指導が必要

令和6年度の実践から <中学校>



C(2)イ 自立した消費者としての消費行動の工夫

生徒の身近な生活の中から、生徒自身の消費行動に関する問題を見だし、自分の消費生活の課題を設定するようにする。



この学習を終えた後も、生徒が実践を継続させていくことが大切。そのためには、生徒が問題を自分事として捉えられるようにした方がよいのではないかな？

(事前準備)

今後生活していく上で環境について心配に思うこと、環境に配慮して行っていることを書き出す。
「地球温暖化が心配だけれど、環境に配慮して行っていることは特にないな？」

<第1時>

生徒が最も心配している地球温暖化に焦点を当て、自分の生活の中で地球温暖化につながる行動と、そのためにできそうなことを考える。

「夜、部屋の電気をつけたまま寝てしまっていることがある。寝るときは電気を消したい」

<第2時>

前時考えたことを共有し、気付いたことを話し合う。さらに、地球温暖化の原因を扱った動画を視聴し、感じたことをまとめる。

「今まで環境について、どこかで他人事だと思っていたが、そうでもなさそう。私の小さな行動も、積み重ねていけば、やがて大きな問題になってしまうのだ。もっと私の生活を見直さなければ」



2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 日常生活に必要な「知識及び技能」の習得については、材料に適したゆで方等に関する事実的な知識の習得に加え、学習内容の本質を深く理解するための概念としての習得にも課題があると考えられる。

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果



(3) ほうれんそうとじゃがいもをゆでるときのゆで方とゆでた後の冷まし方について、よりふさわしい方法をAとB、CとDから1つずつ選び、その記号を□の中に書きましょう。また、そのゆで方とゆでた後の冷まし方を選んだ理由を□の中に書きましょう。



ほうれんそう



じゃがいも

ほうれんそう		記号	選んだ理由
ゆで方	A 水からゆでる		
	B ふっとうした湯でゆでる		
冷まし方	C 水につける		
	D ざるに移す		
じゃがいも		記号	選んだ理由
ゆで方	A 水からゆでる		
	B ふっとうした湯でゆでる		
冷まし方	C 水につける		
	D ざるに移す		

ゆで方

A: 水からゆでる

B: ふっとうした湯でゆでる

冷まし方

C: 水につける

D: ざるに移す

事実的な知識の習得

概念としての習得

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果



3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- ・既習の知識及び技能や生活経験を基に具体的な生活場面をイメージする中で、解決すべき課題を設定できるよう指導を工夫し、引き続き問題解決的な学習の充実を図る必要がある。



児童が学習内容についての理解を深めるためには、実践的・体験的な活動の中で、生活事象の根拠などについて実感を伴って理解する必要があるのではないか？



実践的・体験的な活動を通して知識及び技能を確実に習得し、日常生活の中で活用できるようにするための指導が必要

令和6年度の実践から <小学校>



B(2)ア(オ) 伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の調理の仕方

米飯とみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることや、調理の仕方を理解し、適切に調理ができるようにする。



今までは、「家族のためのみそ汁づくり」として

- 基本のみそ汁づくり
- みそ汁に加えたい実を考え、調理計画を立てる
- 家で実践することを宿題とする
- 実践の結果を発表し、改善点を考える

を行っていたが、児童は知識及び技能を習得し、生活の中で活用できる力がついたといえるのだろうか？



問題解決的な学習の中で、知識及び技能をしっかりと習得し、活用できる展開にする必要がありそうだ

令和6年度の実践から <中学校>



C(2)イ 自立した消費者としての消費行動の工夫

生徒の身近な生活の中から、生徒自身の消費行動に関する問題を見だし、自分の消費生活の課題を設定するようにする。



指導事項のイは、アで習得した知識及び技能を活用するのだから、消費者の基本的な権利と責任の知識をきちんと習得できるようにしなければならない

(授業構想における先生方の考え)

◇今までの授業では、C(1)とC(2)の題材が混在してしまい、題材のねらいがぶれてしまっていたかもしれない。

◇小学校のC(2)と中学校のC(2)で同じような課題が設定されていたかもしれない。

◇生徒は、自分の消費行動が「消費者の基本的な権利と責任」と関連していることを知らないまま大人になっているかもしれない。

<題材の流れ(一部)>

①消費者の基本的な権利と責任について理解する

②自分の生活の中の「もったいない」消費行動に気づき、その行動がどのような権利と責任と結び付いているのかを考える(権利を公使しなかったり責任を果たさなかったりすることで起こる影響も考える)

③自分の「もったいない」消費行動について、解消するために取り組む課題を設定する

今後の授業改善の在り方は？



日常生活の中から問題を見いだせるようにするための指導が必要

実践的・体験的な活動を通して知識及び技能を確実に習得し、日常生活の中で活用できるようにするための指導が必要



家庭科、家庭分野における資質・能力を育成するためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が必要だが、どのような授業を行えばよいのだろうか



今後の授業改善の在り方は？



日常生活の中から問題を見いだせるようにするための指導が必要

問題解決的な学習をより充実させていく

- 問題を見いだし、解決すべき課題を設定する
場面を重視する
- 「何とかしたい」「できるようになりたい」等、
児童生徒に解決の必要感が生まれるよう、
教師が手立てを講じる

今後の授業改善の在り方は？



実践的・体験的な活動を通して知識及び技能を確実に習得し、日常生活の中で活用できるようにするための指導が必要



どのような授業改善が必要なのだろう？

「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の在り方について、みなさんで一緒に考えましょう！

〈協議題Ⅱ〉 問題解決的な学習の充実について

Q:調査結果の課題を解消するために、具体的にどのような授業を行えばよいのだろうか。

- ・ 調査結果で示された課題の原因を考えてみましょう。**

授業場面は、
小学校家庭科
内容「B 衣食住の生活」(2)
ア(エ) ゆでる調理

〈協議題Ⅱ〉 問題解決的な学習の充実について

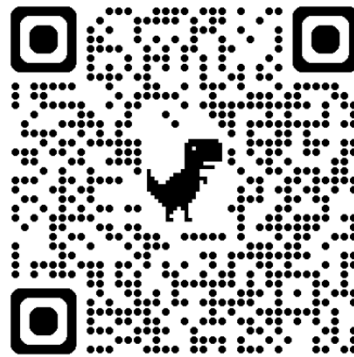
Q:調査結果の課題を解消するために、具体的にどのような授業を行えばよいのか。

- ・ **どのような授業改善を行えばよいか、
「展開」「手立て」「発問」等を考えてみましょう。**

授業場面は、
小学校家庭科
内容「B 衣食住の生活」(2)
ア(エ) ゆでる調理

効果的なICTの活用について

ICTの効果的な活用について





全体まとめ

